

このセッションでは、IVUS の読影につき、小谷順一先生より lecture いただいた。

IVUS の種類、原理等の説明、見間違い易い症例の提示など盛りだくさんの内容であった。

まず、エコーの特性、エコーに対しての心拍数の影響、操作について注意すべきところの説明があり、その後 artifact につき、詳しく説明をしていただいた。Shadowing や、超音波の特性ではあるが、reverberation が出現するような石灰化病変について、特には注意が必要であるとお話であった。また、wire による artifact や、トランスデューサーの回転ムラである non-uniform rotational distortion (NURD)、air bubble による artifact 等、実像を見せていただきながらの解説であった。

次に、実際に intramural hematoma や、dissection を生じている血管の IVUS 像を観察した。血流の流れなどを含め、超音波がどのように観察できるかを含めた内容であり、興味深かった。その後ステント留置時の IVUS における注意点につき学習した。特に DES の時代では、malapposition が問題となっており、その点についてよく画像を観察する必要があると感じた。普段から見慣れているようなものではあったが、IVUS のプロがどのくらい細かいところまでを見ているのかということがよくわかり、自分のいい加減な見方に対しても反省した。

ケースレポートについていくつか見せていただいたが、普段の治療の際に実際迷うようなものが多く含まれており、実際以前自分でも経験し、どのようになっているかと疑問に思っているものも入っていた。それについても小谷先生から懇切丁寧な解説があったため、どうしてそのような見え方になるのかといったことから理解を深めることができたため、すぐに日常診療から役立つ内容であったと思う。このディスカッションも時間が限られてはいたが、そのような面からも非常に実用的で、中身が濃かった。